

アルバニア（マケドニア）最高峰コラブ山(2763m)

今回はバルカン半島の国々の最高峰の山に登ることを目的にしていたので、アルバニアとマケドニアの国境にあるコラブ山に登ることを計画した。アルバニアの北部には Accursed Mountains と呼ばれる標高 2500m 級の山々が鋸の歯のように連なっている。今回、アルバニア側から眺めると良く分かった。

6月21日 事前調査ではコラブ山の詳細な資料や地図が手に入らなかったがラドマイヤ村から登れることが分かったので、とりあえずラドマイヤ村まで行ってみることにした。

ところで前日の20日、ペラトに行く予定でナビに従い運転したが、あまりの悪路で車の底を何度も打ち、あげくは農家に突っ込んだ。それでもナビは案内している。農家の人一家総出で教えてくれたが、この先はランドクルーザーかトラクターでしか行けないと言われ、教えてもらった町（Baiish）まで戻ることになった。グーグルの位置情報も使い方が難しいことを知ったが、ここまでの悪路とは。。。。。。。

しかし、それ以上に重大な問題に見舞われた。エンジンオイルが漏れ始めたのである。このまま時間がたてばやがて車は動かなくなり大変なことになる。急いでガソリンスタンドのある Baiish まで戻ることになった。再び悪路を戻らないといけないうえオイルが漏れているので緊張と心配に見舞われた。

Baiish まで戻り、お茶をしていた人に事情を説明するとすぐそばにガソリンスタンドと車の整備所があることを教えてくれた。車を回して事情を説明すると、『修理は可能だ。問題ない。向かいのレストランで1時間程待つように』と言われ、ほんとに安堵した。ずいぶん前に溪流釣りに行ったときにオイル漏れに見舞われて車が動かなくなり山奥からレッカー移動したことがあるのでなおさらであった。

レストランは老夫妻が営業しており、エスプレッソコーヒーを注文した。安堵したこともあったが、おばさんの人柄もあってとても美味しかった。忘れられない一杯のコーヒーとなった。

以上のような訳でペラトの訪問は諦めたが予定通りラドマイヤ村を目指すことができた。舗装されていた道も途中から地道となり、昨日のこともあったので不安がよぎったがグーグル地図で見ていた Hotel Radomira に無事着いた。主人に聞くと、ここからコラブ山に登ることができると教えてくれた。ホテルも空いていたので2泊することにした。他にパジェロの3人組と西洋人夫婦が泊まっていた。

6月22日 翌日、私たちを含めて7人がコラブ山に向かった。私たち2人が先行したが、ところどころで道標のマークが発見できずウロウロさせられた。コラブ山に続くコルの方向を見ると、どこからアプローチしたのか分からなかったが雪渓を避けるルート上に3人の登山者が遠望できた。そこで彼らの姿を追いかけることにした。でも不思議なことに頂上では彼らの姿を見ることはなかった。私たちが頂上から15分ほど降りたところで、西洋人夫婦に会ったので、あと20分ほどの登りだとエールを送った。

アルバニア側は険しい山容で雪渓もかなり残っていたが、マケドニア側は穏やかな草原帯で多くの人が登っていた。多分、マケドニア国籍者には内務省からの特別許可は不要なのだろう。マケドニア側からの方が楽な様子である。アルバニア側からは標高差1500mを往復する距離の長い登山となる。

アルバニアはユーゴスラビアにも属さず、社会主義のもとで1991年まで鎖国状態を続けてきたため自由化されたとは言え開発の及んでいない村々や牧畜を営む素朴な村人の姿に触れることができた。思い出の多い山旅となった。

Hotel Radomira

